

2024年度 園評価		さくらんぼ保育園
保育方針	・未来を担い生きる力となる子どもたちの全面発達を保障する努力をする。 ・保護者の労働を保障するとともに保護者がより良い条件で働き続けられるよう保護者とともに努力する。 ・保護者とともに子育てについて知恵を出し合い学び合い、子ども・保護者・保育者がともに育ち合う保育園づくりをめざす。 ・子どもの人権を守り地域の連帯の中で育て地域の人々と力を合わせ保育条件の向上に努め平和な社会をつくる努力をする。	
保育目標	・心身ともに健康な子ども ・自分で行動し考えることのできる子ども ・感動する心を持ち豊かに表現できる子ども ・仲間の中にいることを喜び仲間を大切にする子ども	
実践・評価・反省		
～心身ともに健康な子ども～ ○例年なら罹患しないような時期の感染症がでてきたり流行しないような感染症が増加したりした。（流行性角結膜炎、リンゴ病等）しかし、感染拡大とまでには至らずに済んだ。発熱などの症状ではインフルエンザは検査するがコロナウイルスに関しては子どもは検査しない医療機関が多く、大人が感染して「そうだったかもしれない」という事になる。またコロナ禍が過ぎ、親の就労の厳しさから病後・病児保育の利用者が増えたように思う。子どもにとってハードな旅行で体調を崩したり、受診にはすぐにいけないからと園に登園させてしまう等、社会がコロナ禍前に戻ってきている所も感じるが、発熱・嘔吐・下痢症状は回復し24時間経たないと登園不可のルールを変更しないことは、集団保育として子どもを守るためにも必要なことだと思う。 ○散歩先に変化があった今年度。S字畑の利用を止め、森の公園の遊具が利用できなくなったり、不審者まではいかずとも感覚が不思議な方と遭遇する率が上がっていると思う。散歩も気軽にいけない時代に入ったのかと考えさせられる。もしも不審者に遭遇した時の対処法を警察に相談しながら考えたので職員間で共有していきたい。 ○‘旬’や‘和食’を中心に考えられた給食は、家庭で食べる機会が減っているからこそ園で食べる機会が子どもたちにとっては大切な経験となっている。今は偏食が強くても回数を重ねたり、仲間の力をもらいながら、少しずつ食べられるようになり、食べる食材が増えていけばいい。 ～自分で行動し考えることのできる子ども・感動する心を持ち豊かに表現できる子ども・仲間の中にいることを喜び仲間を大切にする子ども～ ○どのクラスも、子どもの姿に悩みながらあれこれ工夫をし、関わってきた1年。落ち着いてきたと思ったら振り出しにも戻ったような姿に落ち込むこともあるが、子どもは行きつ戻りつをくり返しながら成長するので、まずは子どもが自分を出し切ることができるクラスの雰囲気を作れていることに自信を持ってほしい。次にどうするかも職員間でよく話し合いがされてきたことが、完成期の子どもたちの姿に繋がっていると思う。春から自然に触れながら、感じることを考えることを大切にできたことで、感動したり自然現象を自分なりに考えてみたり、心が少しずつ広がり、仲間と共に経験してきたことが全てに繋がってきているのだと思う。 ～もう一度見直す時期～ ○今まで取り組んできた行事にどうしても縛られてしまうことが繰り返されていると思う。ひっきりなしに次の行事の提案、反省がくる現実と、子どもを取り巻く環境が社会の変化と共に変わり、親も子も、私たち保育者も人間力が全く昔とは違う現実を受け止めないといけない。バスが絡む行事はどうしても先に決めないといけないが、行事を先に決めてしまうと行事に向けて子どもたちを引っ張っていく形になり、「さくらんぼ保育園だからこうであらねばならない」に縛られてしまう。子どもたちの姿から行事を考えていける日程的な余裕と心の余裕が今求められているのではないかな。さくらんぼ保育園の保育者全員でもう一度考えていけるといい。 ○お互いの言動を前向きに捉えるには、職務上必要な関わりとは何か、信頼関係を築く上で必要なスキルとは何かを、どの立場においても承知しておくことが大切だと思う。その為には、今の社会でどのような事がポイントに置かれているか、園全体で学んでいく事が第一歩だと考える。 ～新体制となって～ ○主任二人とも入れ替えとなり初めての立場、仕事内容に戸惑いを覚えることも多く、職員みんなの知恵と力を借りてやってきた。 クラスの今を見る力の重要さ、自分はどこまで手を出していいのか、自分が動く事で仲間の仕事を奪っていないか、と考えながら模索する1年だった。		